



松明

(令和3年11月発行・隔月発行) 2021 vol.6



P3 たんぼぼ保育園 防災訓練・運動会より

療育だより

コロナに負けない! Part.4 ~わかくさ飯店に行こう!~

療育指導室 保育士 大山祥子

日に日に秋も深まり、こたつが恋しくなる季節となりました。

重症児(者)病棟では9月下旬から10月下旬にかけて、行事が行われました。その名も「わかくさ飯店」。療育棟は横浜中華街の入り口をイメージした門や中華風の装飾などで大変身しました!約2年ぶりとなる、行事に患者様も喜びが隠せない様子です。「ニーハオ」の大きな声で登場したのは、チャイナ服を身にまとった前田主任と牧田栄養士。普段見ることのない装いに患者様だけでなくスタッフも興味津々。もちろん昼食のメニューは中華料理で、メインは「天津飯」。前田主任、自らが患者様の目の前に立って餡がけパフォーマンスを披露。

栄養管理室スタッフによるパフォーマンスやコスプレは大好評でした。突然の「大盛りで!」という患者様の声に、会場はたくさんの笑顔で溢れました。リハビリテーション科や看護部のスタッフも多く参加し、感染対策をしながらもにぎやかで楽しい行事になりました。これからも「こんな時だからこそ」を、忘れずに日々の生活を患者様と楽しく明るく元気に過ごしていきたいと思えます。新型コロナウイルスの影響により制限のある生活が続いていましたが、感染拡大も落ち着き、少しずつ日常を取り戻しつつあります。以前のような生活に少しでも早く戻ることのできるよう、全員で頑張っていきたいと思います。



本号のご案内

- コロナに負けない! Part.4 ~わかくさ飯店に行こう!~ …… 1
- たんぼぼ保育園 防災訓練・運動会 …… 3
- 第75回国立病院総合医学学会に参加して …… 2
- 健康プラザ 鼻からの検体採取について …… 3
- 看護部だより 新人看護師 輸血研修・ケーススタディ研修 …… 2
- 外来担当医表 …… 4

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

第75回国立病院総合医学会に参加して

第1病棟 副看護師長 佐藤 拓貴

第75回国立病院総合医学会に「局所的にアルミ毛布を使用した際の皮膚表面温度の変化と保温効果の有無」という演題で参加させていただきました。

内容は、腹部のみなど局所的にアルミ毛布を使用した際の皮膚表面温度を測定し、変化を調べたものです。結果として、アルミ毛布使用の有無による皮膚表面温度に大きな差はないことが分かりました。この研究を通して、明確な根拠をもとに看護実践をし、より安全で快適な生活を送れるよう援助していくことが重要であることを再認識することができました。

今年の総合医学会は、去年と同様に新型コロナウイルスの影響によりWebでの開催となりました。密を防げる、オンライン環境があれば、どこからでも気軽に参加できる、時間やスペースに制限を受けることなく、いつでも様々な施設の発表を閲覧できるなど、Webでの開催には多くのメリットがあります。しかし、その場の雰囲気を感じられないことや他施設の方々と交流したり、

直接意見交換したりできないことは残念に思いました。

今回総合医学会に参加し、また一つ新たな経験をすることができました。このような貴重な機会をいただけたこと、また参加するにあたり協力をいただいた多くの方々に感謝申し上げます。



看護部だより

新人看護師 輸血研修・ケーススタディ研修

教育担当師長 五十嵐 大二

新人看護師は10月に2つの研修を受講しました。

輸血療法は赤血球や血小板、凝固因子成分の機能が低下や量が減少した時にそれらを補う治療です。正しく行うことで命を救うことにつながる反面、誤った知識や手技により、正しい効果を得られない・副作用のリスクを高めてしまうこともあります。研修では、検査科の協力を得て、講義と模擬血液を用いた演習を行い、知識と技術を学ぶことができました。講義では実際の輸血製剤に触れたり、過去のインシデント事例を交えた説明に対し、真剣に耳を傾けていました。また、演習では、『輸血バッグにラインを接続する部分が柔らかく、破損しやすいと感じた』と点滴ボトルとの違いを体感することができていました。研修を終えて、『間違いが命の危険につながるので本当に確認が大事だとわかった』『副作用をしっかりとおさえて、安全に輸血を実施できるように振り返っていきたい』と感想を得ることができました。

ケーススタディ研修では、事例に対し病態生理や当院で大切にしている患者の持てる力に着目し、的確なケア

を考察することができていました。倫理的な視点もしっかりと持ちながらグループワークを行うことができおり、研修や日々の看護実践の中で少しずつ力をつけ、ステップアップしていることが感じられました。今後も患者様へ安全で的確な看護が提供できるように、看護部全体でサポートをしていきたいと思えます。



たんぽぽ保育園 防災訓練・運動会

管理課 庶務係 熊澤 龍

たんぽぽ保育園では季節ごとに様々な行事を行っています。9月28日（火）には、火災訓練を行い、子供たちは先生の言うことをしっかりと聞きながら、ハンカチで口元を押さえ、先生や友達と手を繋いで、しっかりと避難ができました。

9月29日（水）にはミニ運動会を行いました、密を避けるために見学の家族を入替での二部制で行いました。当日は天気も良く、練習したダンスのほか、玉入れ、障害物競走やリレーなど頑張る姿を見せてくれました。

最後に園長先生からメダルを貰った子供たちはとても嬉しそうな笑顔を見せてくれました。



健康プラザ

鼻からの検体採取について

検査科 医化学主任 須藤 里菜

インフルエンザ感染症が疑われた時に、長い綿棒を鼻の奥まで入れられ苦しい思いをした、という経験がある方は多くいらっしゃると思います。また、新型コロナウイルス感染症の検査も同様に鼻に綿棒を入れることがあります。この鼻から採取された検体（※）を「鼻咽頭（びいんとう）ぬぐい液」といいます。鼻咽頭とは鼻の奥の部位です。検体採取方法は、綿棒を鼻の入り口からゆっくりとまっすぐ挿入します。鼻の奥の抵抗があるところまで差し込んだ後、10秒程度そのまま綿棒に鼻汁を吸わせゆっくりと引き抜きます。大変苦しい思いをする工程ですが、検査を受けるコツは、体の力を抜き、じっと動かないことです。

動いてしまうと鼻の中を傷つけ出血してしまうこともあり大変危険です。小さなお子様の場合は、保護者の方に体が動かないよう固定していただくこともあります。正しい検査結果を得るには、正しい検体採取が必要となりますので、検査を受ける方にはご理解とご協力をお願い

いたします。

※検体とは、検査の材料となるものを指します。血液や尿、痰など検査のために、目的に応じて適切な方法で体から採取され、何でも検体になり得ます。ここでは鼻汁（はなみず）のことです。インフルエンザウイルス、新型コロナウイルスの検査には様々な検体の種類と採取法があります。



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和3年11月1日より】

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内 科 2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査				安田千尋	
脳 神 経 内 科	伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小 児 科	福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		石井勉 氏家二郎			河原田勉
専 門 外 来 (小児神経外来)			石井希代子		
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃井伸緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科	古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小 児 外 科				清水裕史	
脳 神 経 外 科		福島医大 (第2)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

●受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。

●外来担当医表は令和3年11月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

あまり知られていないかもしれませんが、病院の献立は1ヵ月以上前から作り始めます。大型連休の際は業者からの発注締め切りが早いのでさらに前倒しとなります。そのため私たちの中では気分はずでにクリスマスと年末年始です。これから師走に向けて忙しくなることと思いますが、皆様、計画的に過ごしましょう。(編集委員 M)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地

☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>